

「揺るがない人生のために」 ヨハネの福音書 14 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

大阪では特に変異ウイルスがほぼ 9 割ということで、今までのものよりも感染力が強力だと言うのですが、“今日の大阪の感染状況はどうか”というのが一目で分かるようなランドマークがあるんですね。通天閣（つうてんかく）ですよ。

夜に通天閣の上の方をライトアップする時、グリーンなら大丈夫。イエローなら逼迫。レッドなら緊急事態宣言直前の大変な状態ということなのですが、今はまっかっかですよ。

ところで この通天閣、皆さん、どう思いますか？ どう思います？と言われても困るけど。私 伊丹空港に着いて、空港バスで天王寺まで出る時、途中高速から通天閣が見える。あれ見たら、涙がこぼれて来るんですよ。「大阪、帰って来たんや！」思って。新世界・通天閣。泥臭い大阪のタワーが、私を迎えてくれているような気がして嬉しいんです。

あの通天閣にはモデルがあります。パリのエッフェル塔なんですよ。花の都パリのエッフェル塔。新世界・通天閣。「一緒にするなよ！」と言うかもしれませんが、デザインから発想から、パリを・エッフェル塔を意識して造ったと言われてるんですね。

私は通天閣好きですが、エッフェル塔が嫌いで嫌いで仕方がないというフランス人作家がいました。モーパッサン（1850-1893）。彼は「花の都に、こんな人工的な建造物が建てられるのは断固反対だ！」プランが挙がった時から反対運動を扇動して、何とか建たないようにと一生懸命運動するけど、最終的には押し切られて、エッフェル塔が建てられることになりました。

どんどん高くなって行く建築中の光景を見ながら、彼は「忌々しい！不愉快だ！目障りだ！」と言っていたのですが、完成すると連日エッフェル塔に通うんです。そして、その中のレストランに入って毎日食事しました。

「あんなに『エッフェル塔嫌い』と言っていたのに、毎日行くと、どういうことなんですか？前言翻すんですか？」と言われた時、「わしは今でも嫌いや。パリの中でエッフェル塔を見ずに済むのはここしかない。パリにいてたら、あんなに高い建造物はどこにいても目に入って来る。不愉快だ。しかし、エッフェル塔の中に飛び込んでしまえばそれは見えない。これは人生の真理だと思う。」

自分を不愉快にさせている問題。それは人かもしれない・仕事かもしれない・人生上の何らかのトラブルかもしれない。そのトラブルは、“気にせずにもういいよ”と流せるものならいいけれど、逃げ回っている限り解決はないという問題も、またあるんですよ。

実は 先延ばしにするよりも、思い切ってその問題の中に飛び込んでみることに、或いはその問題と向き合って、正面から対決することによって、初めて解決できるという問題もあるんですね。

人間としてこの世界に生きている者として、誰も避けることができない色んな問題・トラブル・しんどい問題…、しんどいことが起こった時、多くは、そのしんどさを楽に乗り越えるために、心理学の言葉で防衛機制というのをやるんですね。色んなことがありますよ。

* 代償。“明日試験や”という時に、部屋の片付けする人いますよね。試験勉強したくないんですよ。だけど、ただサボっていると自分に言い訳が立たないので、“部屋片付けな あかんかな。”
今しなくてもいいことに取り組むことで、1番しなければならないことを、しなくても済むように言い訳をしている。

* 『酸っぱい葡萄』という話。キツネが、ブドウがたわわになっているのを見て飛びつくけど、あまりにも高い所にあるので取ることができない。“あれ、どうせ酸っぱいから取れなくてよかった！”
獲得できなかったこと・夢破れたこと。自分を納得させるために、うまく合理的に説明して、酸っぱいかどうか分からへんねんけど、そういう風に言い聞かせたり。

人生で受ける苦痛を軽くするために、自分の中で色々言い分けしたりして乗り越えていくことがあります。真正面から対決しないと、最終的に大変なことになってしまうという問題があるんです。
聖書は、“人間だれもが持っている問題を、真正面から解決してくださった方がおられる。それが、私たちをお造りになった創造主、そのひとり子イエス・キリストなのだ”と語るんですね。

今日はここで何度もひも解いた箇所ですが、イエス・キリストの言葉の中から一緒に考えたいと思います。ヨハネの福音書 14 章 1 節。

これは、キリストが十字架に掛かる前日に、弟子たちに向かって語られた言葉です。
死刑される前日、残していく弟子たちに、まるで遺言のように語られた言葉。

1. あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

心騒ぐというのは、心が心配・思い煩い・恐怖でいっぱいになって・動揺して・パニックになって・分裂状態になって・收拾つかなくなる。

私たちはどうでしょう？ 心に大きな悩み事や引っかかっている問題・心配がある時は、おいしいご馳走食べても味がしなかったり、声をかけられても気がつかなかったり、あるかもしれませんね。

ここでキリストは「あなたがたは心を騒がせてはなりません。」
その解決策として「神を信じ、またわたしを信じなさい。」

私たちが心を騒がせる理由はたっくさんあると思います。
だけど今日は、どういう時に心騒ぐのかを3つに絞って考えたいと思います。

1) 絶対的に信頼できる方を見失っている時。

先月、この集会から新潟県に引越しされた夫婦がいます。奥様のご実家の農業、畑などを借りて「有機農法・自然農法、自分たちが納得できる農業をやりながら、ぜひ両親にもキリストを伝えたい」ということでした。

ご主人は中々商売人のところがありまして、フェイスブックで「今 こんなことしてます」と色々アップしてくださるのですが、先日「とびっきりの苺が手に入ります！」と紹介してくれました。
日本の苺はうまいですよ。世界に冠たる日本のイチゴ！素晴らしいと思うし、彼もそのことをよく知っています。「どこの特産のイチゴもうまいけど、これは別格です。僕はおいしいイチゴをたくさん食べて来たけど、これは別物です。こんなイチゴ食べたら、他のは食べられません。」

それを読みながら「商売人め〜」思いながら見たら、ブリブリしてるのよ。
写真では1パックに6つ入ってます。これが4パック入って1箱。4千円。つまり6つで千円の苺。

これは自分で食べるためには買いません。でも、どうしても食べさせてあげたい人がいたので家内と話して、その方のために買いました。送料を入れると5千円突破するんです。それを買って、3/4は自分で食べました。もうね、うまくてね。止まらへんねん。
「あれ？ こんだけしか残ってない…」

誰に食べさせてあげたいかというとき長男の奥さん。今妊娠中で、彼女にというより、いや 彼女になんですけど、食べさせてあげたいなと思って、新鮮なうちに持って行ってやろう。
家内と「2人でイチゴ届けに行くから」と電話しようと。彼はちょうど電車で移動中でした。お昼に「もしもし、お父さんです。」言った瞬間、「何なん？ 何があった？ 何を告知するつもり？ ナニ？」私も「いちご」、すぐ言えなくて。深呼吸して心の準備して、「はい。お父さん、言って。」
「いちご、買って来た。」「なんや、そうやったんか〜。」
思いがけない時間に、滅多に電話してこない人から電話があった時、悪い知らせを想像するんですね。

皆さん、社会人時代・会社員時代、どうでしたか？ 上司から（*手招きして）「ちょっと話あるから」と呼ばれた時、“どんな報酬あるんだろう”と思う方、いらっしゃいますか？
もし、そんな方おられたら羨ましいわ。
“ナニ注意されるんやろう…、どんなことで怒られるんやろう。”警戒心持つんじゃないでしょうか。

息子が「何なん？ ナニ？」「いちごっ。」言うたんですけど、“ああ、この子変わってないな”と思いましたね。ちっちゃい時から、めっちゃ怖がりやったんです。
トイレ行く時、いつも歌を歌いながら行くんですよ。“この子、音楽好きやねんな”と思っていたらそうじゃなくて、1人でトイレの個室に入った時の孤独感、その恐怖に打ち勝つためには、音を鳴らしてないとダメなんです。トイレ入る勇気をかき立てるためのBGMを、自分で流しながらトイレに入る。

怖い映画を見たその晩は夜泣きです。今でも覚えてますねえ。夜中の2時3時に「ビャー！ うわ〜！」
「どうした?!」 大抵、お父さんかお母さんが死んだ夢を見ます。
「お父さんが死んだー！」「お母さんが死んだー！ うわ〜！」 そういう時にどうしたらいいか？
「男やったら泣くな！」と言うよりも「生きてるで。触ってみ。ほら、生きてるで。」

幼児にとって、親は絶対的に信頼できる存在ですよ。大きくなって行くと「なんだ お父さん、ここ違ってた」とか「なんだ お母さん、ここ間違ってた」というのが見えて来るけど、幼い時はお父さんはスーパーマン、お母さんはスーパーウーマンじゃないですか。
自分は無力で出来ないことがたくさんあるけど、このお父さん・お母さんに信頼していたら、なんとなく人生は回って、上手く行くんだということを経験で知っているんですよ。
逆に言えば、お父さん・お母さんがある日突然いなくなったら、それは世界の土台が地割れして、世界破滅みたいな心境になるわけですよ。

ところで、幼い子供に絶対的に信頼できる親という存在が必要であるように、大人になっても信頼で

きる存在を必要としているのではないのでしょうか。

というのは、子供の時の悩みよりも、大人になって抱える悩みの方が深刻だからです。

対人関係においても・仕事上のクレームでも・親戚付き合いでも・様々な点において、自分一人で持ち堪えるのが難しいようなことが、頼んでもないのに来るでしょ。

「そんな悩み、私ありませんわぁ」と言う方、安心してください。これからあるから。

生きてたら必ず問題はやって来る。その時に、“色々な問題があるけど、私には絶対的に信頼できる全知全能の神がおられる”と信頼の神と繋がっている人と、“私には何も無い”とと思っている人とは、同じ問題に遭遇したとしても、持ち堪える力が全然違うと思うんです。

なぜ私は心を騒がせ、次から次へと心配事を持っているのか？

突き詰めて言うと、「何があっても大丈夫だ、と信頼できる方を見失っているからではありませんか？」と言うんですね。絶対的に信頼できる創造主なる神を見失うことを、聖書は罪と語ってるんです。

ここで紹介している神は、私たち日本人が今まで聞いて来た〈人が作った神々〉のことではありません。宗教心は様々な神を発明します。しかしそれは全部、人間が作った空想上の存在なので、人が作った物は人を助けることはできないんですね。

しかし、人を造った方・あなたの作者・あなたに生まれてほしいと願って創造された方がおられる。

以前 ここでビデオを上映したことがあります。

群馬県の体育教師だった星野富弘（ほしの とみひろ/1946-）さんが鉄棒の模範演技で落下し、首の椎骨を折ってしまったために首から下が完全麻痺になって 9 年間入院し、やがて口に絵筆をくわえて詩を書き、花の絵を描くようになられました。彼は途中でクリスチャンになったんです。

初めは「死にたい死にたい死にたい」と言っていたのですが、ある時 考えが変わったそうです。

親友のクリスチャンが見舞いに来てくれ、聖書の御言葉を書いた色紙などを置いて行った。

初めは「そんなの関係ない」と言っていたのですが、ある時「俺は人の世話になるばかりで、周りの人たちに負担ばかりかけて、もう生きている価値がない。明日の朝死んでたら どんなにいいだろう。

俺なんか消えてしまえ！死んでしまえ！」と思って次の朝起きると、看護師さんが来て検温しました。体温・脈拍いつも正常。

「そうだ！食べなければ死ぬんだ。食べないぞ！」朝昼晩の病院食「食欲ない」と言って、数日間絶食しました。「俺は首から下が全く動かないから、首を吊ることもできない。飛び降りることもできない。それなら、飢えたら死ぬるんじゃないか。」

数日間食わずにいたら、めちゃくちゃ腹減った。そして、「まだ食べれませんか？」とお粥を配膳された時、(*おなか) “ぐ〜”。「今日は食べます」と言って食べたお粥のうまいこと うまいこと。

こんなに死にたいと言っているのにメシがうまい。

『空腹は最高の調味料』という言葉がありますよね。味覚が最高度に冴えわたって。

病院食のお粥って、そんなにご馳走じゃないと思いますよ。だけど、それがうまくて仕方がない。

その時、ハタと気がついた。生きようと努力をするから命があるんじゃない。命が私を生かしている。

私は生きようと努力をするどころか、反対に、死んでしまえ・無くなってしまえと思っている。

なのに、相も変わらず生物（せいぶつ）として私は生きている。それは、私が頑張って命があるのでなく、命が私を生かしている。命があって、私に頑張る力や悩む力を与えている。生かされている。その命をお造りになった方が、私を造った創造主なのだ。

そこからピントが合い出して、聖書の御言葉に向き合うようになられたそうです。皆さんはいかがでしょう。あなたを造られた創造主・魂の親を信じていらっしゃいますか？ 信頼しておられますか？ 絶対的に信頼できる魂の親、あなたを日夜見守り・心配し・人生を希望の光で照らしてくださる方がおられるんです。この方を見失っているのです。人は苦しい。

2) どんな時に力が出て来ないか。

1つは、人生の意味が分からなくなる時ではないかなと思います。

ユダヤ人のタルムードという本に書いてある話ですが、イソップ童話みたいな話です。ある所にキツネがいました。腹ペコで餓死寸前。獲物がいても、追いかける元気もないくらい腹ペコ。何とかして楽に食事にありつけないかと思って、ふと見ると、ブドウ園があったんです。ところが、高い垣根が張り巡らされていて中に入ることができない。賢いキツネは“どこかにほつれがないか？”一周したら1箇所だけ穴が開いていた。“ここから入ったらブドウ食い放題や”と思って入ろうとするけど、穴が狭すぎて突破できない。腹減ってるのに入れない。でも、どうしてもブドウ食いたい！そこから絶食するんです。今日は絶食の話が多い。

そして3日間、飲まず食わずで絶食して骨と皮だけになった時、入ってみたらスッと入れた。かしこ！（賢い）自分で言うのもなんだけど、俺ってかしこ！入って行って、ブドウを食って食って腹一杯になって、そろそろ出ていこかと思ったら出れない。腹いっぱい。このままじっと待機していたら、人間が来て、捕らえられて殺されるかもしれない。そこで3日間、息を殺して食べないんです。そうこうしているうちに、ガリガリになるんですね。そして、スッと出て行った。

その時振り返って、「ブドウ園よ、貴様は何者だ?! お前は確かにうまい。しかし、私にとってどんな意味があるのか。私は痩せた状態でお前の所に行き、痩せた状態でまた出て行かなければならない。私は裸で生まれて、裸で去って行かなければならない。労苦して入り込んだが、その労苦は何の意味があったのか。確かにお前を食った。しかし、出て行くために食ったのか？ならば、食ったことは何の意味があるのか。」

ラビ/ユダヤの賢人たちはこれを通して、「人よ、人生の意味を知れ」と言っているのです。

私たちは一生懸命働きます。何のためですか？ 最後死ぬためですか？

私たちは食べたり・飲んだり・働いたりします。でも、最後どうなりますか？

この世から裸で出て行かなければならない。だったら、食べたり・飲んだり・働いたりすることに何の意味がありますか？ あのキツネと一緒にじゃないですか。

食べたり飲んだりだけが人生の行動なら、それ自体に意味はない。意味はいったいどこにあるのかと。

創造主なる神様はギリシア語で“ロゴス”と呼ばれます。

実は、神様には旧約聖書と新約聖書で 70 のお名前があるんです。色んな言葉で言い換えて。そして、ヘブル的思想では名前と実体は一緒なんですよ。

私たちは名前と実体が かけ離れていることがありますね。痩せてる太（ふとし）君とか。下駄箱、今どき 下駄入ってますか？ 靴でしょ。筆箱、今どき 毛筆入ってますか？ ボールペンやシャープペンじゃないですか。だから、名前と実体は必ずしも一致してませんよね。

でも聖書では、名前が登場した時は実体を表すんですね。神のことをロゴスと書いてあるんです。ロゴスとは意味・ミーニング。“意味” という意味がある。神から離れるというのは、意味から離れるということなんです。意味と切断されるから無意味になる。

人間は神の意図があって造られました。神様の栄光を現すために、創造主の素晴らしさを現すために人は造られ、その人でないと果たすことができない使命をそれぞれ与えられているんです。しかし、自分の造り主なんか無いと仮定すると、自分で意味を作り出していかなければならない。

昔 五木寛之（いつき ひろゆき/1932- ）さんが『人生の目的』という本を書きましたが、その中に 2 回書いてました。「人生の目的はない。」 だったら、何でそんなタイトルの本にするんですかね。人生の目的はないというのは、“人生の目的はないという人生観” で生きているからです。それ、女子高に入って「男子がいない！」と言うのと一緒ですよ。私が言っている意味、分かりますかね。たとえばたとえるほど、よう分からんと。

私たちが造られた方は、私たちに意味と理由を持って、この世界に置いてくださったのです。だけど、そのいのちのルーツから切れているので、私たちは意味が分からなくなるんですよね。その時、虚しいです。心が騒ぎます。

3) 死と向かい合う時。

死ぬということ。死と言っても、一人称の死、二人称の死、三人称の死があります。三人称の死は“彼の死”。有名人が亡くなった時「ああ、この人 亡くなったんだ。一世風靡したこの人も亡くなったんだ。」 でも、新聞の記事を読んだその日 寝れるでしょ。他人事やから。これが三人称の死。

二人称の死は“あなたの死”。私にとって「君」とか「あなた」と呼びかけることができる対象の死。妻の死。親の死。子供の死。かけがえのない人が亡くなる時、自分の人生の一部が死んだようです。人生の中の重要なパートがポロッと欠けたような気がしますね。

しかし、最も深刻なのは一人称の死です。“私の死”。私自身が死と向き合うということ。自殺の名所で、山梨県の富士山の麓に樹海（じゅかい）という所がありますね。これはすごい字ですね。樹木の樹に海。樹海。日本のジャングルというか、ここに入って迷いこんでしまったら出て来れない。今でも毎年 30~40 名の方々が、ここで命を絶っていると言われてます。

太陽の光が差し込まない鬱蒼とした森。陰気と言えれば陰気だけど、マイナスイオン充満と言えれば、そう言えんこともない。この樹海を縦断・横断する遊歩道が今出来てるんですね。

だから、それを行くと絶対に迷うことはありません。その遊歩道の両脇には木がびっしりと生い茂っていて、歩いていると、両側の樹木の幹がちょっと変わっていることに気がつきます。木の幹に、やたらとロープが括り付けられているんですね。紐が巻いてある。その紐が、ずーっと森の奥まで行ってるんですよ。これは、死のうと思って入るけど、死にたくないという思いがあって、気が変わった時に、もう1度遊歩道に戻って来れるように手練り寄せるための紐なんです。

死にたいと言っている人は、実は死そのものを望んでいるんじゃないんです。楽になりたいということなんです。死そのものを渴望しているのではない。生きていることがしんどいので、このしんどいことから解放されたい。“そのための手段は死しかないのではないか”と思ってそうするのですが、死そのものには、やはり恐れがある。だから、手練り寄せて戻ってくるんでしょう。

有罪判決を受けて、日本でも指折りの過酷な刑務所に1年9か月収監されていた方がいます。冬はキツイですよ。冬は靴下履いて寝ても、室温がめちゃくちゃ下がるので凍えて眠れない。規律が非常に厳しくて、トイレはお昼休みまで我慢しないと駄目。トイレ行く時、必ず右手を真っすぐ上げて「用便行きます！」と言わないと駄目。許可取らないと駄目なんです。行って「手洗います！」と一々全部許可。自由気ままに生きて来た人が、そんな規律の中に入れられて、逆らったらアカンと。1年9か月の生活で、体重30キロ減ったそうです。ちゃんと食べて。要は、健康的な生活したから30キロ減ったんですね。すぐ戻ったと言ってました。

そこでは束縛がある。一々許可を得なければならない。収監されている人たち同士の間関係があって、“えっ”というような人たちもいっぱいいて。色々不自由なことや辛いことがあったけど、1番のとびっきり辛いことは“夜寝る前にやって来る”。

その刑務所では、全員が夜9時半消灯・6時起床です。9時半から6時までの間は布団から出てはいけない。布団の中にいなければならない。大の男が9時間半寝れますか？寝れないんですね。なので、眠りに就くまでの間、布団の中で色々考えることになるんです。

はじめ考えていたことは、出所したらどんなビジネスをやろうか。どんな冒険をやろうか。あの人に会って、こんな食べ物食べて、こんな事業起こして…。色々考える。だけど、考えることが全部尽きると、最終的に、少年時代に封印していたある問題がワッと出て来た。それは“死んだらどうなるか”ということです。

この方は、とにかくマグロかカジキみたいな人ですよ。ずーっと動いているんです。マグロ、止まったら呼吸できないらしいですね。ずっと動いて、口の中に海水を通していかなあかん。なぜスケジュールいっぱい入れて、活動ばかりして動き続けて来たのか？止まったら、死の問題に対して未解決という状態であることを思い出すから。何かに熱中することによって死の問題を忘れることができるので活動しまくっていた。結局、考えても解決がない。解決がないけど考えずにおれない。その時間を過ごすのが何よりも苦しかった。

今生きていると、いつまでも生きているような気がします。

でも、1番確実なことは“皆死ぬ”ということです。1番不確実なのは、それがいつなのか分からない。時期は不確実だけど、死という事実は消えませんよね。

聖書によると、人間は死んでゼロになるのではなく、1度死んで、死後に神の前に立つ時が来る。

この“死後の裁き”ということを見ると苦しくて仕方がない。

その死の問題の解決を明確に語っているのは聖書だけなんです。

ヨハネ 14:1 **あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。**

神を信じるだけでなく、**神を信じ、また（そして・イコール）わたしを信じなさい。**

神を信じ、そして、神としてイエス・キリストを信じなさい。

この方は、人間が持っている死の問題の解決・罪の赦しの解決のために来てくださったからです。

家内は吉野（よしの）に実家があって、毎年8月に一緒に帰るのですが、ホントに田舎で、その地名が日本書紀に出て来るんです。もうね、猿・鹿・猪。畑を鹿が荒らす。

家内は「撃ち殺したるか」と。めっちゃ怖い。一時真剣に、猟銃免許取ることを考えてたんですよ。だけど、“毎年 免許更新にこれくらい掛かります”というのを知って、お金で諦めたという。

とにかくスゴイ田舎なんですけど、その村に行く前にダムを通るんです。

巨大な建造物・巨大なダムを見た時、「人間が造った物って大きいな！すごいな！」

コバルトブルーの水が満々とたたえられていて、遠くから見ても綺麗ですが、ダム湖の上に架かっている橋のたもとに車を置いて、降り立って下を覗くと吸い込まれていきそう。ひゅ～って。

そして、コンクリートの大きな壁のような物を見ている時、感動というよりも、ちょっと怖くなるんです。巨大すぎるものの前に立つ時、言われなき恐怖のようなものを感じませんか？

巨大なものの前に1人ぽつんと立っている時、自分の小ささを実感しますね。

幅1万キロ・高さ1万キロの とてつもなく大きなダムの前に100m離れて立った時、圧倒されると思います。そのダムが、今自分の目の前で突然決壊したとします。凄まじい水がドワーツと自分に覆いかぶさって来る。どんなに全速力で逃げても追いつかれます。ただ のみ込まれるしかない。

その時、水と自分の間に地面があって、それがパッキリ割れて水を全部のみ込んだら、私はどうなるでしょうか？ 助かります。

実は 人間は恐るべき結末の前に立っています。すなわち、死後の裁きが襲いかかろうとしている。

その裁きの波をたった1人で全部のみ込むために、イエス・キリストは来てくださいました。

あなたがたは心を騒がせてはなりません。心を騒がせている根本原因を取り除くために、わたしは十字架に掛かりに行きますから。

だから**神を信じ、またわたしを信じなさい。**神が遣わしたイエス・キリスト、このわたしが、あなたがたの罪の代わりに十字架の上で罰を受けて、あなたがたの罪を全部償って、3日目によみがえる。そのよみがえりを信じなさい。

弟子たちは復活したキリストに再会したんですね。再会した弟子たちがこれを記録しています。

キリストの十字架と復活を信じて、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れる者は、神の子として受け入れられ、全ての罪が赦されて、たとえ死んだとしても 永遠の天国に国籍を持つ者になると書いてあるんですね。

星野富弘さんは首から下が全く痛みを感じないので、針で刺しても・つねっても・ナイフで傷つけても気がつかない。首から上は分かるんです。頭が痒い・ほっぺたが痒い。でも、首から下の感覚が全くない。痛みがないので、身体が非常事態になっていることに中々気がつかないんです。痛みは私たちにアラームを出してくれてるんですね。それ、続けてたら危ないよと。それが彼には無いんです。

彼は尿道にカテーテルという細い管を通し、その先にチューブを繋いで、尿をずっと出しています。尿のコントロールができないから。だけど9年間入院してたら、カテーテルの内側に色んな物が詰まって来る。詰まると、膀胱が尿で満タン状態になっても出ない。普通は尿意を催すので自力でトイレに行けるけど、尿意を催せない。膀胱がはちきれんばかりになっていたとしても、自覚症状がない。

その時、身体に第1の異変。全身から脂汗がドシャーっと出るそうです。それでも放置していたら心臓がバクバクバク！心臓がものすごく細動する。それで“詰まってる！”すぐ出してもらわないと大事になるのでナースコールを押すのですが、看護師さんたち、そういう時に限って忙しいんですよ。来てほしい人たちがばかり。押します。待ちます。押します。待ちます。押します。まだ来ない。そのうちグッタリして。

ベッドの傍らでお母さんがオロオロ。すると突然 カテーテルに繋がっている管を口にくわえ、チュッと吸って・吹き入れて、吸って・吹き入れてをやっているうちに、カテーテルの中のゴミが取り除かれてシャーッ！尿が出た。…吸ったら、尿が口の中に入るじゃないですか。そんなん、お金貰っても、誰もしたくないじゃないですか。ある意味、屈辱的に見えるかもしれない。

でもね、愛する息子がそうやって喘いでいる・苦しんでいる時、今自分ができることは何だろう。これしかないと思った時、お母さんはそれをしてくださったんですね。

「母は命の恩人です」と言っておられました。そんな屈辱的にも見えることを、なぜお母さんがしたのかというと息子に対する愛です。

キリストは真っ裸にされて・十字架に付けられて・罵られて・嘲られて・3本の釘で全身の体重を留められて。人から捨てられ・神から呪われて。

何でそんな、しんどくて痛ましいことをしたんですか？

その道だけが、私たちの罪を贖う唯一の道だったからです。

あなたを愛し、あなたに永遠のいのちを与え、完全なる赦しを与えるために、十字架に掛かってよみがえってくださった救い主。この方こそ、あなたの救い主です。

6. イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

父があなたの作者です。

